



環境情報流通実証実験 全体概要説明

環境情報流通実証実験TF



目次

1. 実証実験の目的
2. 参加企業
3. 実験パターン全体図
4. 検証範囲
5. スケジュール
6. 各企業事例紹介
7. 評価結果まとめ
8. 今後の計画

1. 実証実験の目的

1. AIS作成支援ツールの検証

(1) AIS作成支援ツールの基本機能の確認

- － 原部品のAIS作成: 物質からアーティクルへ変換する最初のAISを作成。
- － 複合化: 複合購入部品を製品構成に合わせて寄せ合わせる。
- － 中抜き: 伝達すべき物質が含まれている情報に纏める。
- － 単純化: 『伝達すべき候補』の管理物質毎の集計と、材質毎の集計を行い記載する。

(2) JEITAオプション機能

- － 積重ね: 階層に構成する(複合)アーティクルから原部品の各階層の名称を記載し、各階層の員数を記載する。
- － 複合化: 複合購入部品を製品BOMに合わせて一括して積上げを行う。
- － シリーズ品一括作成: シリーズ品基本情報をシリーズ品番に分解してXMLファイルを作成する。

(3) AIS作成ツールの操作性

- － JEITA版AIS作成支援ツール
- － JAMP版AISツール
- － 環境情報システム
- － ASPのWebシステム

1. 実証実験の目的

2. 環境辞書とAIS/XMLスキーマの整合性の検証

環境辞書を実装したシステムにより、AIS等で作成したXMLスキーマを格納し、環境辞書構造との整合性を確認する。

- ・JEITA版AIS作成支援ツール
- ・JAMP版AISツール
- ・環境情報システム

3. 全体プロセスの評価

- 1) 対象品種別による作成負荷の検証
- 2) 交換履歴の管理
- 3) ASPサービスの内容と運用性
- 4) 自社社内システムとの連携に対する課題の抽出

2. 参加企業

川上企業

KOA(株)

TDK(株)

ニチコン(株)

日立エーアイシー(株)

(株)村田製作所

川中企業

アルプス電気(株)

TDK(株)

(株)村田製作所

川下企業

沖電気工業(株)

京セラ(株)

日本電気(株)

日本ビクター(株)

(株)日立製作所

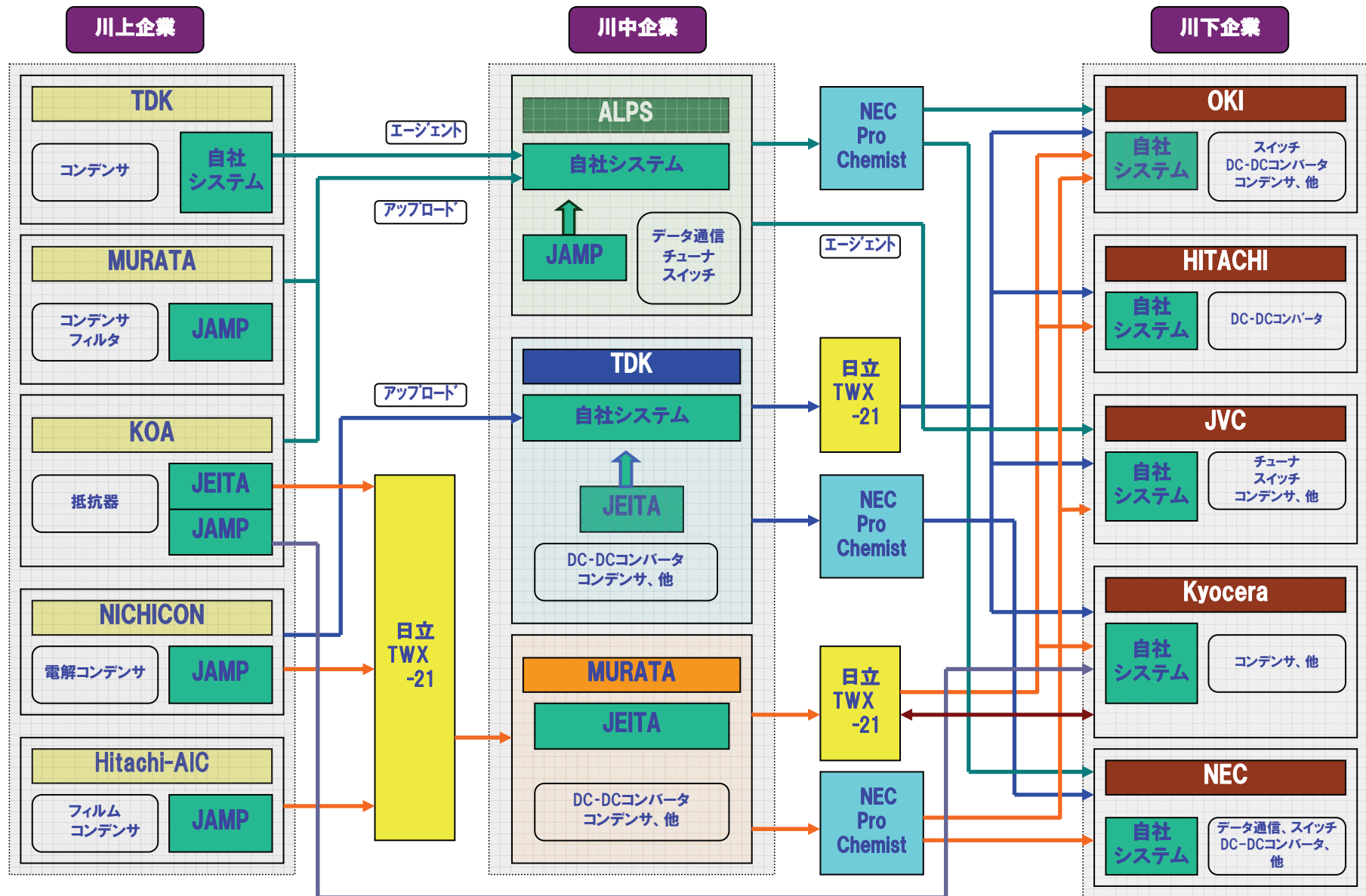
ASPベンダー

日本電気(株)

(株)日立製作所

・提供企業－入手企業の組合せ毎に品目・交換方法を決定

3. 実験パターン全体図



4. 検証範囲

情報作成ツール

1) AIS

- ・ECALGA版(V. 3)
- ・JAMP版(V. 3)

2) 交換データフォーマット

- ・ECALGA辞書XMLフォーマット
(V. 1. 1)

3) 物質リスト

- ・SVHCリスト(15種類)

5. スケジュール

項 目		6月		7月				8月					9月				10月			
		22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26
準備	NEC／日立 AS申込書提出			▼																
	参加企業申し込み				■															
	疎通確認					■	↔													
	環境辞書システムインストール			■																
	川上企業への説明会			■																
	川上3社のAIS作成ツールの準備			■																
	環境辞書システム環境設定				■															
	評価項目見直し			■																
	対象品目確定			■																
実証実験	実証実験							■												
	中間確認											▼ 8/27								
	評価																■			
	環境辞書・AISへのフィードバック																■			
	二次実証実験検討																	■		

6. 各企業事例紹介

川上企業事例紹介 KOA(株) 春日 裕司 氏

川中企業事例紹介 アルプス電気(株) 志賀 真史 氏

川中企業事例紹介 (株)村田製作所 嶋巻 敬一 氏

川下企業事例紹介 沖電気工業(株) 羽賀 和清 氏

7. 評価結果まとめ

No.	課 題 ・ 要 望	対 応 策
1	「報告物質」欄が空欄の場合には、単位（「g」「mg」）が記入されてはならない。	JAMPにツール改善を依頼予定。
2	シリーズ情報を記載する際、シリーズ品情報として、発行者型番、依頼者型番の両方の記載が必要だが、片方が記載漏れでもエラー警告がない。	JAMPにツール改善を依頼予定。
3	JAMP AIS仕様では、発行者型番は必須、依頼者型番は任意となっており、スキーマと整合性がとれていない。	JEITAでは両方必須として運用。
4	各ASPでエラーチェックの内容が異なる。	スキーマのチェックをするようASPに依頼。JAMPツールも同様。
5	あるASPで物質リストで「全角」をエラーチェックされた（物質リストのVer.の差）。	JAMPに、物質リストとツールの関連付け等のVer. 管理の運用を検討依頼予定。
6	自社システムとASPとのデータ連携が人手を介さずデータ連携できるといい。	ASPに依頼。

7. 評価結果まとめ

No.	課 題 ・ 要 望	対 応 策
7	JEITAツールにて、物質リストの対象物質追加や特定物質含有に関する有無項目の追加等をできるようにして欲しい。	環境情報専門委員会にて継続検討。
8	コマンドインターフェース／Webインターフェース双方のサービス提供をお願いしたい。	ASPに依頼。
9	AISのバージョン変換のサービス提供をお願いしたい。	ASPに依頼。
10	AISのバージョンチェック機能のサービス提供をお願いしたい。	ASPに依頼。
11	AISで報告いただいた物質は、法令に該当する必要最低限の物質情報のみであり、個社が要求する化学物質について調査されているか分からない。企業によって報告基準が違うため、業界で統一されると管理負荷が減る。	当事者間のTPAで解決。

8. 今後の計画

1. 実験を進めるに当たって、大きな障害やトラブルはなく、当初の目的を達成することができた。
2. 現在、実験中に改善が必要と思われる個所について、JEITA／AIS作成支援ツールは環境情報専門員会で改訂中。
3. JAMPで追加予定の物質リスト（‘09/11に発行予定）をツールに取り組む。
4. 今後については、会員企業より改訂後のツールや物質リストを用いた実証実験の要望があった場合、再度実証実験を検討する。